

# 公園再整備における住民参加の効果についての考察

## Effectiveness of workshop on park design

中央大学 学生員 ○坂本 将吾  
中央大学 正 員 谷下 雅義

### 1. はじめに

現在、全国各地で地域特性に配慮した個性ある公園づくりを目指して、住民参加型の公園整備が行われている。その有効な手段としてワークショップ（以下WS）がある。WSは行政から制約（費用・制度）を聞き、専門家のアドバイスを得ながら、住民自らがアイデア・意見の表明や交換をする。そうした経験により参加住民が公園に必要であると感じる設備に関する価値観を変化させ、さらにその価値観のばらつきが小さくなる、そして公園への理解を深め、最終的には公園に対しての満足度を高めることがWSの効果として期待されている。しかしそうした効果は十分明らかにされていない。そこで本研究では以下の仮説を検証することを目的とする。

WSは参加住民の対象設備に対する価値観を変化させる。  
WSは参加住民間の価値観のばらつきを小さくする。  
WS参加住民の公園の満足度は不参加住民よりも高い。

### 2. 先行研究

仮説 に関して、熊沢ら<sup>1)</sup>は駅周辺まちづくりを対象としたWSを通じて、参加住民がまちづくり方策に対しての主観評価（効用度、確信度）が変容する（本研究では「価値観や満足度の変化」）ことを定量的に示し、その変容のパターンが情報の自明性と住民が自己への影響をどう想定するかによって異なるということを示している。しかしながら、具体的に実現された設備への価値観の変化は明らかにしていない。仮説 に関して、片桐ら<sup>2)</sup>は公園設計を対象に、参加住民の「各設備に対する価値観(重み)」のばらつきがWS参加前後で減少したことを示しているが、不参加住民との比較はしていない。仮説 に関して、2)では「公園の各設備の状態(配分、配置、意匠)」と「各設備に対する価値観(重み)」によって公園の満足度は決まると仮定した上で参加住民と不参加住民の満足度を比較し、参加住民の満足度のほうが高いことを示している。けれども、設備だけで公園の満足度が決まるとは考えにくい。

### 3. 研究方法

公園整備WSのプロセスを整理するとともに参加した住民と公園周辺の不参加住民にアンケート調査を行ない、上記の先行研究の課題を踏まえたうえで仮説の検証を行う。

仮説 , の検証方法は、対象公園に「存在する・しない」設備が参加前後においてどの程度必要であるかを、まったく不必要(1)からきわめて必要(7)まで7段階で回答してもらい、  
キーワード：ワークショップ、住民参加、価値観の変化  
連絡先：中央大学理工学部土木工学科 Tel(03)3817-1810

その値を価値観の尺度とし、変化を分析する。WSを経て「存在する設備」の回答が正(+)に、「存在しない設備」の回答が負(-)に変化しているという仮説を統計的に検証する。また単に変化の正負だけでなく、「存在する」設備は「不必要」から「必要」、「存在しない」設備は「必要」から「不必要」、へと価値観が変化することを明らかにする<sup>注1</sup>。そして、参加住民の設備に関する価値観のばらつきがWSでの議論を通じて小さくなることを、参加前後と不参加住民の理想での回答の分散の比較により明らかにする。仮説 の検証方法は、まず満足度の評価項目<sup>注2</sup>について参加・不参加住民にきわめて不満(1)からきわめて満足(7)まで7段階で回答してもらう。そして、信頼性係数 $\alpha$ の値を確認したうえで、各項目の回答の和が各回答者の満足度であるとし、平均の差の検定を行なう。また、設備・環境・安全の分類ごとの合計についても平均の差の検定を行ない、WSでの議論の内容との関係を考察する。

### 4. 対象事例とアンケートの概要

対象事例は三鷹市の「新川丸池公園」とした。住民参加型で再整備をしたきっかけは、「丸池」という湧水池を復活させるための「丸池復活WS」(97.2～11全7回)である。その後「実施設計WS」(98.7～99.4全4回)で整備プランが完成し丸池が復活した。WSをきっかけに「丸池の里わくわく村」が組織され、祭りや清掃など行っている。そして「丸池復活WS」で未整備部分の修正のため「丸池第二期WS」(03.11～04.5全6回)が開催された。回答者属性を表1に、調査内容の概要を表2に示す。

表1 回答者数と属性

|       | 10代       | 20代       | 30代        | 40代        | 50代        | 60代       | 70代      | 合計          |
|-------|-----------|-----------|------------|------------|------------|-----------|----------|-------------|
| 参加住民  | 7<br>(2)  | 2<br>(1)  | 1<br>(1)   | 3<br>(0)   | 6<br>(1)   | 10<br>(4) | 9<br>(2) | 38<br>(11)  |
| 不参加住民 | 13<br>(5) | 15<br>(9) | 35<br>(24) | 23<br>(19) | 21<br>(11) | 12<br>(8) | 9<br>(6) | 128<br>(82) |

( ) 内の数字は女性の人数

表2 調査内容の概要

|           |                                                                                      |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 参加前の価値観   | 理想の公園を想定してもらい、その公園において以下の設備がどの程度必要であるかを回答（7段階）                                       |
| 参加後の価値観   | WSの経緯を思い出してもらい、そうした経緯を踏まえると以下設備がどの程度必要であるかを回答（7段階）                                   |
| <存在する設備>  | 池 小川 芝生の広場 はらっぱ                                                                      |
| <存在しない設備> | 噴水・滝 遊具全般 花壇 コンクリート舗装の広場                                                             |
| 満足度調査     | 以下の項目にどのくらい満足しているかを回答（7段階）                                                           |
| <設備項目>    | 公園の形、広場の広さ、休憩施設設置状況、ベンチの数、トイレの広さ、水のみ数、緑の量、池の大きさ、照明灯の数                                |
| <環境項目>    | 公園全体の景観、自然とのふれあい、公園全体の日当たり、公園の風通し、公園の活気、小川の清潔感、公園の清潔感、トイレの清潔感、池の清潔感、広場の管理状況、利用マナーのよさ |
| <安全項目>    | 自宅からの距離、自宅からの交通安全性、車椅子の移動の安全性、夜間の安全性                                                 |

## 5. 仮説の検証

### 仮説

WSを経て「存在する」設備は、はらっぱを除き回答の変化が+、つまり参加前よりも必要と感じるようになった住民が多い(図1)。回答の変化がなしの住民がどの設備においても多いが、参加前から「必要」とする住民がほとんどであり、理想通り実現したため変化がなかったと考えられる。「存在しない」設備はすべて-に変化した住民が多い(図1)。変化なしは参加前から「不必要」とする住民がほとんどである。

図2より池と小川は参加後に新たに「必要」になり、滝・噴水、遊具全般、コンクリート舗装の広場は参加後新たに「不必要」になった住民が多い。

以上よりWSに参加した住民はWSを通じて価値観が変化し、実現する設備に対しては「必要」に、実現しない設備については「不必要」になることが示された。

### 仮説

参加住民の価値観のばらつき(分散)は滝・噴水以外減少した(図3)。小川とコンクリート舗装の広場は有意水準95%で差が認められた。また、参加住民の参加後と不参加住民の理想の分散を比較したところ、すべての設備について参加住民の参加後の方が小さくなった。小川・遊具全般・花壇・コンクリート舗装の広場は有意水準95%、はらっぱは有意水準90%で差が認められた。

### 仮説

満足度の調査項目の回答について、信頼性係数 $\alpha$ を求めたところ、参加住民・不参加住民ともに0.85以上であったことから、各項目を合計したものを公園に対する満足度とした<sup>4)</sup>。そして、その平均の差の検定を行った結果、参加住民の満足度が高いことが示された(表3)。

また、設備・環境・安全の分類別にみると、WSにおいて数多く取り上げられた設備・環境項目において有意に差があり、WSの議論が影響されにくいと考えられる安全項目には有意差がない、という結果となった(表4)。

## 6. おわりに

WSには、参加住民の価値観を変化させ、そのばらつきを小さくし、対象公園への満足度を高める効果がある可能性が示された。今後、設備に対する価値観だけでなく、行政や地域社会との関わりや物事の考え方(ソーシャルキャピタル)についても変化したのかどうか、について検討する予定である。

さらにWSの運営方法によって上記の仮説が成立しない可能性があり、分析事例を増やしていくとともに、事例横断的にWSの効果を実証すること、WSを行なって整備することが不参加住民の満足度に与える影響を明らかにすること、が課題である。

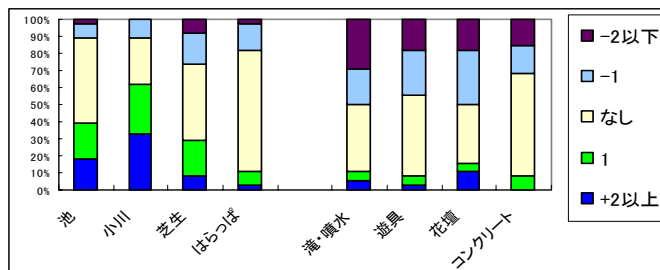


図1 参加前後での回答の変化

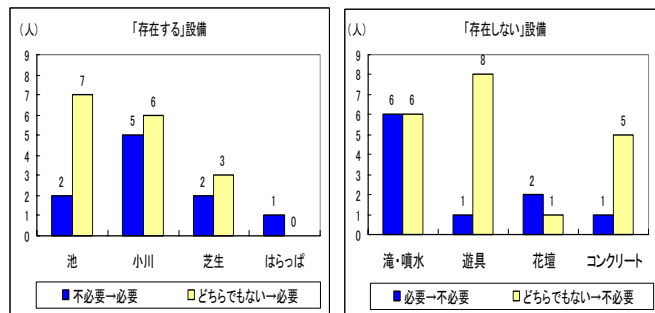


図2 参加前後での価値観の変化

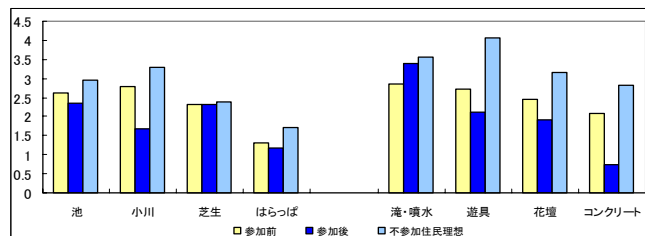


図3 価値観のばらつき(分散)の変化

表3 満足度の比較

| 回答合計値 | 平均    | 標準偏差 | t 値  | 信頼水準         |
|-------|-------|------|------|--------------|
| 参加住民  | 114.2 | 18.3 | 2.00 | 95%<br>有意差あり |
| 不参加住民 | 104.5 | 21.7 |      |              |

表4 項目別満足度の比較

| 回答<br>合計値 | 平均   |      | 標準偏差 |       | t 値  | 信頼水準 |
|-----------|------|------|------|-------|------|------|
|           | 参加   | 不参加  | 参加   | 不参加   |      |      |
| 設備項目      | 43.4 | 39.0 | 7.79 | 9.37  | 2.66 | 99%  |
| 環境項目      | 55.2 | 49.9 | 9.51 | 11.95 | 2.00 | 95%  |
| 安全項目      | 15.6 | 15.5 | 4.76 | 4.76  | 2.01 | 差なし  |

注1 7段階のアンケート回答で5~7を「必要」、4を「どちらでもない」、1~3を「不必要」と定義する。

注2 塚田<sup>3)</sup>では、小公園の満足度評価をする項目を都市公園制度、社会的潮流から広く捉えるため「利用」「環境」「安全」から選定している。本研究では3)を参考に満足度の評価項目を選定し設備・環境・安全項目と分類した。

### 参考文献

- 1) 熊澤貴之中村芳樹, まちづくり合意形成活動を通じた主観評価の変容, 日本都市計画学術研究論文集, p649~654, 2002
- 2) 片桐秀植, 公園設計における市民参加の有効性に関する研究, 中央大学理工学研究所, 2001
- 3) 塚田伸也, 湯沢昭, 住民意識から捉えた小公園の評価構造に関する検討, 日本都市計画学会学術研究論文集, p907~912, 2002
- 4) 池田央, 心理学研究法8 テスト 東京大学出版会